第23期第3回理事会議事録

日　時　昭和60年5月22日（水）18:00～20:50

場　所　気象庁観測部会議室

出席者　理事：山元，松本，田宮，土屋，花房，松野，浅井，能登，吉野，春日，菊地，渡辺（偉），近藤，中島，広田，瓜生，石島

監事：丸山，山田

議　事

A．報告事項

1. 第23期第8回常任理事会議事録の確認について

一部削除修正のうえ確認された．

2. 各委員会報告

〔庶　務〕資料にもとづき報告があった．

(1) 第11回「リモートセンシングシンポジウム」の協賛依頼について

(2) 「第3回統計気候学国際会議」の協賛依頼について

ともに協賛が承認された．

〔会　計〕

4月分の収支状況については次回の常任理事会で報告することが了承された．

〔天　気〕

5月号の目次及び6．7月号の予定内容について

〔講演企画〕

次の委員の交替が承認された．

新　渡辺正夫（東管）← 旧　渡辺文雄（旧東管）

新　林　祥介（東大）← 旧　中村　一（旧東大）

〔気象集誌〕

海外販売分を一括買い取りによる委託方式にすることについて話を進めてきたが，(1)財政的にそうメリットがない，(2)現在の購入者分が相当値上げとなる可能性が強い，ことなどから，これは見送ることにした．

B．審議事項

3. 昭和59年度事業報告（案）について

庶務担当理事から資料にもとづき説明があり承認された．

4. 昭和59年度会計決算報告

会計担当理事から資料にもとづき説明があり承認された．

なお，収支決算書の様式は，次年度から文部省指定のフォーマットとする．

5. 昭和59年度監査報告

丸山監事が4月19日学会事務局で行った監査結果を資料にもとづいて報告があった．指摘された会員増のための方策，常任理事の選任規程の整備などについては，今後対応を検討することにした．

6. 昭和60年度事業計画（案）について

庶務担当理事から資料にもとづいて説明があり，資料の中の 3. 1989年 IAMAP 総会誘致については別途検討することにし承認された．

7. 昭和60年度予算（案）について

会計担当理事から資料にもとづいて説明があり，承認された．

8. 第13期日本学術会議気象学研究連絡委員会委員及び地球物理学研究連絡委員会委員の推薦について

気象学研連9名，地物研連1名計10名の委員を推薦する予定であったが，地物研連の委員は気象学研連委員の中から出すことになった．このため，気象学研連委員として菊地(北大)，田中(東北大)，浅井(東大)，松野(東大)，川口(極地研)，武田(名大)，山元(京大)，菊池(気象庁)，柳原(気象研)の9名を推薦することが了承された．

9. 山本賞受賞者選考規定の改正について

この賞の授与を秋季大会とし，これに間に合うように選考の手続きをすること，選考委員は「天気」・「気象集誌」の現及び前委員の中から委嘱することにした選考規定改正（案）が承認された．

10. 常任理事の辞任申し出について

山岸常任理事の辞任及び松本理事の常任理事就任が承認された．なお，事務分担については次回常任理事会で検討することになった．

11. 国際学術交流について

5月17日(金)に委員会を開催し，1985年 IAMAP 総会出席の補助金申請があった7件について審議した．

選考にあたっては，(1)若い人を対象，(2)人数は30万円の枠を考慮して3名～4名，(3)出席するセッションが異なる，などの点を考慮して慎重審議の結果

伊藤朋之（気象研究所），山崎孝治（気象研究所），中島健介（東京大学理学部），林　祥介（東京大学理学部）

の4名を選考した旨報告があり，承認された．

12. 総会次第について

承認された．

（以下361頁に続く）

雑　感

藤吉　康志*

味も素っ気も全く無いアエロフロートを乗り継いで到着したターリンは，絵になるドイツ風の（とドイツから参加した人が言っていました），住んでみたくなるような（とレニングラードから来たロシア人が言っていました）街で，少々肌寒い程度のほど良い気温だったせいか，長時間の散策に良く，プライベートタイムも十分に楽しめるところでした．

モスクワでの暗い雰囲気の中での入国審査に比べて，ターリン空港での暖い出迎え，可愛いお嬢さん達による受け付け事務，直ぐ折れる画鋲を使ってのポスター作りの手伝い，少し待つだけで飲めるコーヒータイム，エクスカーション，会議中の各種準備，対応等，準備委員会の気配りが随所に見られ，会議への参加は，極めてスムーズに行うことができました．

腹立たしいこともいくつかありました．例えば，会議の期間が長く，前払いとは言え，ホテル代が高いこと（日程に余裕があり，1日の会議が終わったあとの時間が長過ぎ，仕方なく部屋のテレビを見ていたため，今でもラジオからロシア音楽が入ってくると，つい懐しくなるという後遺症持ちです）；当初から恐れていたように，ソ連の人達の発表と質問と答えが全てロシア語であり，かつスライドが見にくいため，全くと言って良いほど内容が理解できなかったこと（イヤホンで英語の同時通訳を聞くことができますが，大声で張り上げるロシア語が邪魔でほとんど聞きとれません）；航空機観測を含む，観測技術の立遅れ（期間中，“航空機観測がいかにあるべきか”について特別にセッションが設けられ，Warnerを初めとして各国の人達が意見を述べるのですが，われわれは蚊帳の外でした）；発表の2/3近くがポスターセッションであるにも拘らず，ポスターを眺めながら議論する場所と時間が不十分であったことなどです．

会議の性質上，理論的な発表よりは，観測結果の報告が多かったのですが，無機的なデータが多く，有機的なデータが少なかったのが物足りませんでした．自分で撮った雲の写真が少ないのも目立ちました（それも大家と言われる方々が多く撮していました）．現象の理解というよりは，現象の再現を目指すモデリングが多いような印象も持ちました．また，あちこちで，Weather Modification という言葉も耳にしました．そういった中で，Rasmussen らの，風洞中に浮かした雪片に雲粒を付着させる実験の映画が好評で，講演後再上映される位面白がられていたのを見て，何となくほっとしました．会議中の質問は，国内の学会と同じように，特定の人が行い，福田（ユタ大学），高橋（ハワイ大学）両先生も活発に議論していらっしゃいました．

会議参加の最大の動機は，めったに行こうと思わないソ連に，これを機会に出かけてみようと思ったことで，目的は，論文で名前だけしか知らない人達の顔を見てくること，またそういった人達の口から直接研究の興味を聞き出すこと，同世代の知人を作ること，最後に自分の研究成果を発表してくることでした．最初の目的は，ほぼ十分に満たされ，次の目的も半分位は満たされました．後の2つは，性格的な問題から，部分的な成功はありましたが，全体としてはうまく行ったとは言えません．しかし，良い仕事をすれば，そのようなことは直ぐに挽回可能です．私にとって，本会議に参加して得た何よりの収穫は，（国内の学会でも同じですが）何とも言えぬ自分への腹立たしさだと言えそうです．

* Yasushi Fujiyoshi，北海道大学低温科学研究所降雪物理学部門．

（392頁より続く）

13. 61年大会当番について

春季大会は東京地方の大学グループに，秋季大会は中部支部にそれぞれ決定した．

14. 1989 IAMAP 総会の誘致について

浅井理事から資料にもとづいて説明があり，今年8月ハワイ開催される IAMAP 総会において1989年の IAMAP 総会のホスト国として東京が立候補することが承認された．

15. 数値予報シンポジウム Proceeding の刊行について

来年8月4日から1週間 WMO 等主催で気象庁において開催される数値予報シンポジウムの Proceeding の刊行については前向きの姿勢で検討することが了承された．

16. 名誉会員制度について

先例を参考として常任理事会で原案を作成し，全理事の意見をきくことが了承された．

17. 会員の新規加入の承認について

個人会員本田恵子ほか20名の新規加入及び団体会員八丈島空港出張所ほか4団体の新規加入が承認された．